

県北山間地の観光向けモモの 安定生産を目指して

❖ 1 背景と目的 ❖

モモは、県北山間地域の観光直売向けとして重要な品目です。品質の良い果実（1果重300g、糖度12～13度）を得るために、摘蕾・摘果作業を行います。果実の中にある核（種子の周囲の硬い部分）が徐々に硬くなる時期（硬核期）に、この作業を行うと、生理落果や障害果の発生を引き起こす原因となるため、硬核期を避けて作業する必要があります。

しかし、硬核期は外観から判断することが難しいため、県北山間地域における主要品種「あかつき」を対象に、硬核期判断基準を明らかにしました。



写真1 モモ主要品種「あかつき」果実

❖ 2 研究成果の概要 ❖

満開後40日から5～7日おきに果実を採取し、その大きさと、核の硬さの度合い（「核のリグニン化（硬核指数）」（福島県農林水産部果樹指導要項）より）の調査により、硬核期を判断する以下の3つの基準を明らかにしました。

①時期

硬核期の始まりは、6月上旬頃（満開後50日頃）、硬核期の終わりは、6月末頃（満開後70日頃）です。

②果実の重さ

硬核期の始まりの1果重は17～18g、硬核期の終わりは約56gです（図）。

③果実の大きさ

硬核期の始まりは、縦の長さが約36mmです（写真2）。

「あかつき」では、上記の硬核期判断基準により、果実の重さや大きさを見ながら、6月上旬頃までに摘果作業を終わらせ、7月頃から補助的な摘果作業を行うことで、品質の良い果実を収穫することが出来ます。

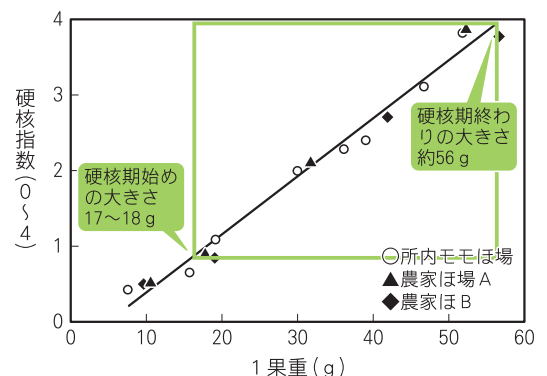


図 モモ「あかつき」の1果重と核の硬さの度合い(硬核指数)の関係

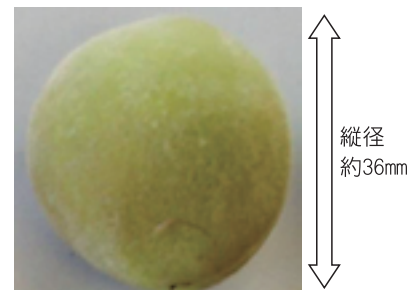


写真2 硬核期の始まる大きさ

❖ 3 実用化に向けた対応 ❖

平成24年度から、J A茨城みどり果樹園芸部会（部会員数18戸）をはじめとするモモ栽培農家へ周知を行い、当地域におけるモモの安定生産に活用していきます。